

会を開催



議員 佐藤 文男

社会保障制度改革の影響は

議員 社会保障制度改革の手順を決めるプログラム法と生活保護法が国会で可決された。いずれも国民の命と健康を支える土台で、社会保障の根幹を揺るがす改革である。税と社会保障の一体改革の名のもと、消費税は平成26年4月から8%に引き上げられ、社会保障の財源に充てるはずだったが、安倍政権の社会保障改革は、国の責任を放棄しているものである。市民にとっても負担増と給付減が求められ打撃となる。市民

生活への具体的な影響と、市としての対応は。

市長 国保と後期高齢者医療制度の分野では、70歳から75歳までの医療費の窓口負担の引き上げなど、平成26年度から29年度までをめぐりに講ずるとされている。措置の詳細は示されていない。影響や対策については、今後、国から示された段階で見極めたい。

地元産材使用木造住宅の固定資産税の軽減を

議員 宮城県は、主要構造



どうなる窓口負担

材に県産材を一定以上使用する住宅の建主に補助金を交付している。市においても、地元産材の活用、普及のために、地元産材使用の木造新築住宅の固定資産税の軽減を図るべきでは。

市長 家屋の評価は、総務大臣が定めた固定資産評価基準に基づくもので、税の軽減は考えていない。しかし、応援の仕方は、いろいろあると思う。要望に関しては真摯に受け止め、前向きに努力する。

栗原市議会では、開かれた議会をめざし、市民の皆様には議会の活動を広く知っていただくとともに、議会に対する貴重な意見をお聞きするため、市内10地区で議会報告会を開催しました。今回、参加された119人の方から、議会や市政に対する貴重な意見をいただきました。主な意見と回答は次のとおりです。また、栗原市ウェブサイトでは、議会報告会の報告書をすべて公開しています。

政務活動費

問 条例制定の条件は整ったのか。また、月額2万5000円の根拠は。

回答 交付に関する条例・規則などが、会派代表者会ならびに議員全員協議会で決定された。支給金額は、議会改革調査特別委員会の中で登米市

を参考に協議を重ねて決定した。さらに現在、議長から市長に予算措置の要請を行っている。

問 政務活動費はなぜ必要なのか。

回答 議会議員の調査研究その他の活動に資するための経費として、地方自治法に規定されている。現在、県内の市で交付されているのは栗原市だけである。政務活動費は使途を限定し、領収書や報告書の提出を義務付け、残額は返還することとなる。

議会活動

問 議員の年間出席日数は。また、交通費として費用弁償が支給されているか。

回答 本会議、常任委員会、予算・決算特別委員会、その他の特別委員会などを含むと116日程度になる。なお、費用弁償は、議会改革により廃止した。

総務

常任委員会所管

問 納税貯蓄組合への助

成をやめて、別の方面に生かしてほしい。

回答 納税貯蓄組合は、納税意識の高揚、税収の確保に貢献されている組織で、地域を支えるコミュニティとしての存在意義も重要であることから、補助金を継続するべきと考えている。

問 市債の返済シミュレーションをしているのか。

回答 市債のうち合併特別債や過疎債は元利償還の7割が地方交付税で充当される。また、万が一のために、減債基金を46億円積み立て、

10/29~31

議会報告



瀬峰地区での議会報告会

償還計画も作っている。

問 少子・高齢化が進む中、将来の市政運営はどうなっていくのか。

回答 一般会計の平成25年度末の借入見込額は約446億円、そのうち地方交付税交付金で約338億円が補填される。将来の財政運営に支障がないように、議会も努力をしていく。

産業建設

常任委員会所管

問 工業団地の整備などのために特別会計が設置さ

れ、予算が措置されたが、企業誘致の見込みはどうなっているか。

回答 決定した企業はないが、先行して団地整備を進めている。市長も企業を訪問し、誘致に努めている。

問 築館工業団地の整備は。また、県の対応は。

回答 県の所有地で、整備はオーダーメイド方式との考え方である。議会としても、ぜひ誘致してほしいと市長に働きかけている。

問 汚染稲わらの2年の一時保管期限が来る。議員は本腰を入れて取り組め。

回答 議会と執行部が一体となり、関係ルートを通じながら解決に向け行動する。

問 ラップ梱包した平成23年産の汚染牧草は、いつ、どう処分されるのか。

回答 いまだに国から方向性が示されていない。

問 迫川の水の濁りが取れない。大雨・土砂災害の危険はないのか。

回答 岩手・宮城内陸地震で発生した堆積土砂がすべて流れるまでは、水の濁りは取れない。現在の濁りは、災害の危険性との関連はないと聞いている。

文教民生

常任委員会所管

問 栗原中央病院に対する市民の批判を、改善する方向で努力してほしい。

回答 市は、安全・安心で質の高い医療を継続して提供するため、病院と診療所の連携強化を図り、機能分担を推進している。また、市民の医療ニーズに対応できる診療提供体制を構築するため、医学学生修学資金貸付事業などにより常勤医師の招へいに取り組んでいる。

問 不登校の子どもの数が増えていると聞く、原因はいつてもないのか。

回答 不登校の子どもがいると聞いている。原因はさまざまあると思う。

問 合併して10年にもなるので、幼稚園の給食、預かり保育をどの地区も同様に对应してほしい。

回答 市内の給食センターの拡充が決定している。また、幼保一体型施設の場合、幼稚園児にも給食が提供されることになる。

問 閉校した学校跡地を活用するため、老人介護施設などを建設してほしい。

回答 市が福祉施設を運営するのではなく、閉校した学校の土地や建物を提供し、法人が運営していくことになる。

問 除染問題はどうなっているのか。災害復旧予算がないと言われる。議員は現地を確認してほしい。

回答 子どもの生活空間である保育施設・教育施設・公園・集会所など公共施設の除染は終了し、現在、除染実施区域の住宅敷地などを除染している。今後は、通学路、生活道路、局所的

に放射線量の高い個所の除染を各地区除染協議会などと協議しながら進められる。

問 山王団遺跡公園の利用方法は他にもあると思う。地域活性化のための方策を講ずる必要があるのでは。

回答 縄文時代の重要な遺跡であり、史跡の保護・活用を第一に、竪穴式住居の復元などのほか、あずまやや園路なども整備している。体験学習などを通じて「縄文時代の人と自然のかかわり」に触れられるよう、活用が図られている。

中間報告

議会報告会運営調査特別委員会

平成25年10月29日から31日の3日間の日程で、全議員が4班に分かれ、市内10地区において議会報告会を開催しました。

議会報告会は市民に開かれた議会を目指し、二元代表制としての議会の役割を理解いただくとともに、市民との活発な意見交換を図ることができました。

意見交換では、議会審議議員報酬、政務活動費、さらには市当局への放射能対

策、財政運営、福祉対策など多くの貴重な意見・要望をいただきました。

今回寄せられた意見や要望は、当委員会が項目ごとに分類・整理し、12月定例議会に報告をしました。

市政に関する事項については市長に伝えるとともに、議会の各常任委員会や特別委員会における調査および議員間討議などにより、議会としての役割を果たしていきます。

伸びゆく芽

子どもたちに期待

これまで稲作専門を続けてきました。ここに来てTPP、減反政策など「大きく変わる農業」に戸惑いと不安でいっぱいです。周りに目をやれば、学校を出ても就労の場が少なく、ふるさとを後にする若者たち。栗原の基幹産業までもが衰退したなら、地方経済はどうなるのでしょうか。

しかし、栗原にはたくさんの宝があります。素晴らしい自然、たくさんの伝統文化、正直で勤勉な人々、そして、新幹線や高速道路などの地の利、隣には世界のトヨタが。

私は、この宝を生かす人づくり、未来を担う子どもたちの教育の在り方に期待します。児童数の減少で多くの閉校が…。これを機に大勢の中で勉強にスポーツに切磋琢磨し、英語特区など社会に出てグローバルで自己主張できる人材が育ち、やがて我が郷土、栗原発展のため知恵が発揮されるのでは…。



菅原 和子さん
(志波 和子)

私もひとこと

海外交流



工藤 修二さん
(花 山)

平成24年初冬、駐日スウェーデン大使夫妻が栗原市を来訪された折、我が家にも立ち寄られました。短時間ながら自然や文化について話す機会に恵まれました。同時にスウェーデンを紹介する催事がエポカ21で行われ、興味深く見学しました。市内の高校生が交換留学生として毎年、派遣されていることも広報くりはらなどで紹介されていて、海外交流の在り方として良い取り組みだと思っています。

そして、海外交流の一環として、お互いの理解を深めるためには人的交流が一番適していると思います。私自身、ものづくり(焼物)を業としていたので、スウェーデンの工芸家(木工、編み物)などを招いてワークショップを開いてもらえたら、有意義な交流ができそうです。スウェーデンは冬が長い国なので、日々の暮らし方やインテリアなど、我々と違う考え方を教えられそうです。

あじがき

新人議員として、夢中で活動した昨年でした。

市長が掲げた7つの成長戦略も2年目を迎え、本腰を入れての事業展開となります。議会としても市民とともにその実現に向け、栗原市活性化のために活動します。市のマスコットキャラクター「ねじりほんによ」が誕生し、様々な場面での活躍が期待されます。

昨年、各地区で「議会報告会」を開催しましたが、市民の参加が少なく、議会活動の力不足を痛感させられました。今年は積極的に地域に出向き、意見交換の場を増やすことを目指していきます。

広報編集調査特別委員会

- 委員長 佐々木 脩
- 委員 佐藤 範男
- 委員 菅原 勇喜
- 委員 高橋 渉
- 委員 菅原 久男
- 委員 佐藤 千昭
- 委員 佐藤 悟
- 委員 高橋 勝男
- 委員 小野 久一
- 議長 石川 正運